

心理学参考文献（歴史）（2015年4月改訂）

はおすすぬ。は広島キャンパス図書館になし（は一部欠）

心理学史

1. シュルツ 「現代心理学の歴史」 培風館
2. ルシュラン 「心理学の歴史」 白水社（クセジュ文庫）
上の2つは欧米で評価の高い心理学史の翻訳。
3. 今田 「心理学史」 岩波書店
4. 城戸 「心理学問題史」 岩波書店
上の2つは日本で古くから読まれてきた心理学史。出版年は古い。
5. 大山他 「心理学のあゆみ（新版）」 有斐閣（新書）
6. 梅本・大山 「心理学史への招待」 サイエンス社
7. 吉田 「心理学史から」（第1集） サイエンス社
上の3つは最近の出版。大山他は入門書。梅本・大山は定評のある専門書。

歴史年表のある本

8. 吉田 「人間科学としての現代心理学」 日本放送出版協会
9. 吉田 「心理学研究入門」 大日本図書
10. 相良 「図解心理学」 光文社
上の3つは心理学史の年表がある本。

思弁的心理学

11. テオプラストス 「人さまざま」 岩波文庫
古代ギリシャの人が書いた人物寸評。現代人にも十分あてはまる。
12. アウレーリウス 「自省録」 岩波文庫
ストア派哲学者が自らの心や行動を省みて、人間は心の持ちようが大切と考えた。

心身二元論・構成主義・認知主義

13. 伊藤 「自己変革の心理学 - 論理療法入門」 講談社現代新書
「どうせ」、「すべき」というゆがんだ思考を変えることが自己変革につながる。
14. 大野 「はじめての認知療法」 講談社現代新書
認知（ものの受け取り方や考え方）を変えることでうつ病など精神疾患の治療へ。
15. 岡野 「いやな気分の整理学 - 論理療法のすすめ」 NHK出版
ゆがんだ思考を変えていやな気分を自分で整理する。論理療法の平易な入門書。
16. カールソン 「小さいことにくよくよするな！ - しょせん、すべては小さなこと」 サンマーク文庫
悩みの解決法。しょせん、ものは考えよう。心理学の認知療法の実践版。
17. 竹田 「マイナス思考と上手につきあう認知療法トレーニング・ブック - 心の柔軟体操でつらい気持ちと折り合う力をつける」 遠見書房
認知療法を自分でやってみるためのトレーニング・ブック。

精神分析

18. フロイト 「精神分析入門」 新潮社（文庫）、中央公論新社他
精神分析学の創始者が大学で行った講義録であり、比較的わかりやすい。
19. 宮城 「精神分析入門」 岩波書店（新書）
精神分析学の入門書としてはわかりやすいし、広い領域を扱っている。
20. 宮城 「夢」 岩波書店（新書）
夢について、精神分析の考え方を中心に、わかりやすく、幅広く扱っている。
21. 河合 「コンプレックス」 岩波書店（新書）

日本でのユング派精神分析の第一人者が、無意識のコンプレックスの働きを述べる。

22. 河合 「無意識の構造」 中公新書
ユング派の精神分析の立場からの無意識についてのわかりやすい解説。
23. 福島 「精神分析で何がわかるか - 無意識の世界を探る」 講談社(ブルーバックス)
精神分析についてのわかりやすい入門書。15.より出版年が新しい。
24. 小谷野 「図解雑学精神分析」 ナツメ社
25. 鈴木 「図解雑学フロイトの精神分析」 ナツメ社
上の2つは一般向けのやさしい概説書。

行動主義

26. スキナー 「自由と尊厳を超えて」 春風社
道具的条件づけの原理に基づいて、人間社会を改革する構想を述べている。
27. 杉山 「行動分析学入門 - ヒトの行動の思いがけない理由」 集英社(新書)
道具的条件づけに基づく、行動分析の理論と応用をわかりやすく紹介している。
28. 奥田 「メリットの法則 - 行動分析学・実践編」 集英社新書
道具的条件づけの応用の実践編。具体的な例が多く興味深い。
29. 佐藤 「行動理論への招待」 大修館書店
スキナー派の行動主義の立場からのユニークな心理学の解説。

さまざまな人間のとらえ方

30. 河合 「こころの処方箋」 新潮文庫
著名な精神分析学者が、悩みに対するアドバイスを、55章にわたり与えてくれる。
31. 下條 「サブリミナルマインド - 潜在的人間観のゆくえ」 中公新書
心理学から見た人間観。広汎な研究成果を駆使した、興味深い難解な本。
32. 下條 「<意識>とは何だろうか - 脳の来歴, 知覚の錯誤」 講談社現代新書
意識のとらえ方に絞って、やはり広汎な研究成果を駆使した、興味深く難解な本。
33. 下條 「サブリミナル・インパクト - 情動と潜在認知の現代」 ちくま新書
無意識の潜在認知が人間にいかに関与しているか。上の2つの著書につながる本。
34. 池谷 「脳はなにかと言い訳する - 人は幸せになるようにできていた!？」 新潮文庫
気づきにくい脳の働き、特になにかと言い訳して自分を守ろうとする脳の働き。
35. 石川 「だまされ上手が生き残る - 入門! 進化心理学」 光文社新書
人間の心の働きが進化の過程でどのように獲得されたのか。
36. 石川 「人はなぜだまされるのか - 進化心理学が解き明かす「心」の不思議」 講談社ブルーバックス
人間の様々な心の働きは進化の結果獲得され、利点と欠点を持つとする。
37. 菊池 「「自分だまし」の心理学
人間は自分に都合よく情報を歪めて認識する「自分だまし」を無意識にしている。